

甲府市立玉諸小学校 学校だより

平成31年2月1日

学校教育目標

学びの庭

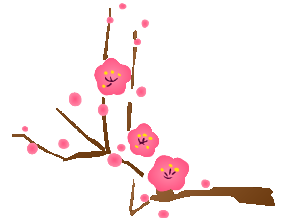


第12号

知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図り、児童一人一人のよさや可能性を伸ばす。

文責 校長 岩下清彦

進級、進学に向けて前向きに



一年で最も寒い時期は、大寒の1月21日から立春の2月4日までと言われるとおり、寒さの厳しい日が続いています。日中に日差しがあっても気温が上がらず、暖かい春が待ち遠しく感じられます。

さて、今年度も残すところあと2か月となりました。各学年での学習や生活もまとめの時期となります。子どもたちは、日々の学習や学校行事など、様々な活動や体験を通して、心も体も大きく成長してきました。年度末には子どもたちみんなが「やるべきことは、やりきった」「楽しく、実り多い一年だった」と思えるように、学年の締めくくりとなるこれからの2か月間を、進級や進学に向けて前向きに取り組んでほしいと願っています。

学年のまとめをしっかりと行い、自信をもって進級、進学できるよう玉諸小教職員一同、一日一日を大切に指導を行っていきたいと思います。今後ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

インフルエンザの感染予防を



例年この時期、インフルエンザによる欠席が懸念されます。本校でもインフルエンザや発熱による欠席が増え、すでに学級閉鎖の措置をとった学級もあります。全校集会などを校内テレビ放送に切り替えたり、避難訓練を延期したりする対応もとってきました。

学校では感染を防ぐため、うがい・手洗い・換気などの指導を行っています。ご家庭におかれましても、栄養と休養を十分にとるとともに、規則正しい生活を心がける、できるだけ人込みを避けるなど、子どもたちの健康観察、体調管理をし、感染予防に努めていただけますようご協力をお願いいたします。

また、子どもたちの就寝時刻が遅くなってきているようです。睡眠時間の確保、土曜・日曜の過ごし方にもご配慮くださるよう、お願いいたします。

新児童会役員が決まりました

1月25日（金）に児童会役員選挙の立会演説会、投開票を行いました。来年度の児童会長、副会長を決める選挙です。立候補できる5年生の各クラスから会長と副会長、同じく4年生の各クラスからは副会長の候補者が立候補しました。選挙権は3～6年生全員にあります。



校内テレビ放送で行った立会演説会

21日からの選挙運動期間には、責任者をはじめ、クラス全員による選挙運動を行いました。クラスめぐりや立会演説会では、「元気があいつができる学校」「明るく楽しい学校」「みんなが仲のよい学校」「きまりを守る学校」など、それぞれの候補者が玉諸小をよりよくするための活動を訴えました。

校内テレビ放送での立会演説会の後、投開票を行い、来年度の児童会本部の体制が整いました。新児童会本部を先頭に、高学年全員で、よりよい玉諸小をめざして、全校をリードしていってくれることを期待します。

図工・美術作品展で多くの児童を表彰

本校には、各種大会やコンクールなどでよい成績を収めた児童が数多くいます。定期的に業前の「あさかぜ」の時間に全校集会を開いて表彰しています。

1月22日（火）の朝は、2学期に授業で取り組んだ教育祭図工・美術作品展の表彰を行いました。今回は、インフルエンザ予防のため、体育館での全校集会で行う予定を変更して校内テレビ放送で行いました。各学年1名の「県特選」、各クラス3名の「市入選」、同じく各クラス3名の「校内入選」の児童、合わせて144名の名前を読み上げ、代表児童に表彰状を渡しました。各教室では表彰された児童へ、温かい拍手が送られていました。

一年を通して、様々な大会やコンクール、作品展などがあります。玉諸小の子どもたちの活躍を期待しています。



子どもたちに あいさつの大切さを

児童会活動の一つとして「あいさつ運動」を行っています。毎週月曜日は児童会本部役員が、金曜日には本部役員と各学級の代表児童が、2つの玄関前で登校してくる児童に大きな声で「おはようございます」と、あいさつを呼びかけています。大勢の子どもたちが元気にあいさつを交わし、気持ちよく一日のスタートを切っています。

子どもたちが成長し、行動範囲が家庭から学校、そして社会へと広がっていくにつれ、家族や友達だけでなく、関わりの少ない人や初対面の人と話す機会が増えていきます。人と人がコミュニケーションを図り、人間関係を築く上で欠かせない「あいさつの大切さ」を理解して、さらに進んであいさつができるようになってほしいと願っています。ご家庭でも、あいさつの意味や大切さについて、お話しする機会を設けていただければと思います。



北玄関前の「あいさつ運動」



「特別の教科 道徳」についての校内研究



5年2組での研究授業

本校では、今年度の研究主題を「『特別の教科 道徳』における評価の在り方～児童の成長を受けとめ、認め、励ます道徳を通して～」として校内研究会を進めてきました。

児童の発達段階を踏まえ、低・中・高学年で実施した3回の研究授業や、教材・教具の開発などを通して「特別の教科 道徳」の授業づくりとともに、児童自身が道徳的成長を実感し、学習意欲の向上につながる見取り評価の工夫など、道徳科における評価の在り方を中心に研究を進めてきました。甲府市教育委員会から指導主事の先生方をお招きしての研修や研究授業などを行い、研究を深める中で、児童がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます

個人内評価の具体的な方法や工夫など、研究の成果と課題が明らかになってきました。

現代社会は、急速なグローバル化、情報化・科学技術の進展、少子高齢化などに伴う様々な課題を抱えています。そして子どもたちは今後、予測困難な時代を生きていくこととなります。そのような中、道徳の時間が「特別の教科 道徳」として教科化され、今年度から全国の小学校で完全実施されています。子どもたちが他者と対話し協働しながら、自分の人生をよりよく生きていくことができるよう、研究の成果を今後の教育活動に生かしていきたいと考えています。